

浜長保険センター安全だより

令和3年3月10日

浜長保険センター 第52号

電話 079-246-2561

FAX 079-246-2571



日ごとに暖かさを感じるようになり、一時期のコロナ感染状況からすると落ち着いてきましたが、油断は禁物です。春の訪れに心も晴れやかになります。一層のご発展とご活躍をお祈り致しております。



狭い道で対向車とすれ違うとき、朝夕の太陽光が眩しいとき、又夜間、対向車のライトに幻惑されたとき等どのような対応をされているでしょうか？ 基本的な対応について説明したいと思います。

問 狭い道路で対向車と出合ったとき、どうすればよいのか？

答 まず、広い場所を見つけて、そこに停止する。停止する場合は、車体を斜めにせず、真っすぐにしてすれ違いやすいように停止します。



問 広い場所がない場合は、どうするのか？

答 側溝に落ちないように出来る限り、道路の左端に寄ります。前進すると車体の左端の確認が困難なときはサイドミラーを下に向け、左端を確認しながら後退して左端に寄せます。自信がないときは、動かない。サイドミラーは、車体からはみ出しているの、接触する恐れがあるときは、サイドミラーを折りたたむ

問 朝夕の太陽光が眩しいとき、夜間、対向車のライトに幻惑されたとき、どうするのか？

答 季節的に太陽の軌道が低く、朝夕は太陽の光が目に入って眩しいときがあります。通勤時間が同じですと、眩しい場所は、ほぼ同一場所となります。夕陽も同様です。この自然現象は、突然ではなく、事前に経験していることであり、ドライバー自身が安全対策をしなければなりません。眩しさ回復に約3秒、前方の確認が困難であるのに、そのまま運転を継続することが危険です。事故の原因は、自然現象ではなく、減速、徐行を怠ったことです。



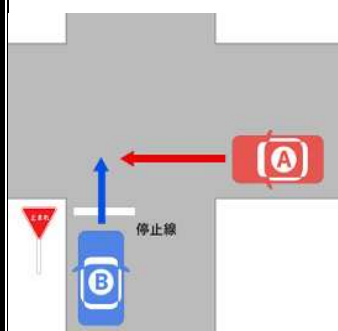
問 眩しいとき、具体的にどうするのか？

答 サンバイザーを活用します。帽子の縁で光をさえぎるようにします。事前にサングラスを準備し、眩しさを押さえます。太陽光を直視すれば、一瞬、視力を失うことがあります。このときは、直ぐに減速又は左端に停止します。幻惑の解消を待って運転を再開することになります。



問 夜間、対向車のライトに幻惑されたとき、どうすればよいのか？

答 対向車がハイビームで接近してくるときは、事前に分かります。歩行者が横断していると自車と対向車のヘッドライトが重なり、歩行者が見えなくなる「蒸発現象」が生じます。それを防止するためすれ違う前に道路の左右をしっかりと確認し、横断歩行者等の有無を確認しておきます。確認した後、減速して、対向車のライトを直視せず視線をやや左前方に向けて、すれ違うようにします。夜間用サングラスあり。



〈一時停止標識がある交差点の一時停止〉

「停止線があるときは、**停止線の直前で停止**しなければならない」と定められていますので、停止しても停止線を越えていると違反になります。また、一時停止は車輪の回転が完全に止まることを意味し、完全に停止する前に加速した場合は、停止したとは言えないと判例で示されています。

交差点の左右に建物などがあって、確認が出来ない場所がありますが、停止線の直前で停止しなければなりません。その後、確認出来る位置まで前進し、再び停止する。警察では、事故防止のため、「二段階停止」を奨励しています。

